

アットホームな国 ブルガリア

ニューガラスフォーラム前専務理事

吉井 純行

Bulgaria where any Japanese feels at home

Sumiyuki Yoshii

Ex-Executive Director of NGF

1. はじめに

私は、1997年7月-2000年3月までの2年半余、関係の皆様方のご指導とご協力を得ながら、NGF専務理事を務めた吉井純行です。そのよしみで、このたび本機関紙に再び登場する機会を得たことを大変、光栄に思います。

専務理事退任後、2000年5月から2002年5月までの2年間、国際協力事業団（現 独立行政法人国際協力機構）派遣の専門家としてブルガリアの首都ソフィアに駐在しました。日本政府の技術協力の一環として、産業政策の立案・実施を指導するのが任務でした。仕事場は産業を所管する経済省で、お役人との日常的なコンタクトをはじめとして、様々な人々と、様々な場面で、様々な出会いがあり、貴重な経験をすることが出来ました。

そこで、一般の日本人には未だよく知られていない、ブルガリアについて、その一端を紹介します。

多くの日本人はブルガリアと聞くと、ヨーグルトの国、と反射的に反応しますが、これ以上の情報には疎いようです。かく言う私も、出発

前には同じ状態でした。最近では、ブルガリア出身の力士として活躍中の琴欧州を知っている人も少なくないかもしれません。

結論を先に言えば、ブルガリアは気候が良く大変親日的で日本人にとって住み心地満点の国でした。

2. ブルガリア概況

(1) 地理的状況

地図で一目瞭然の通り、周囲を5ヶ国に接し、東に黒海を臨んでいます。全土、四季のある温帯性気候に恵まれています。国土面積は日本の約3分の1ですが人口800万以下と少なく、神奈川県、大阪府とほぼ同規模です。標高572mの首都ソフィアは、人口123万を擁し帯広と同緯度に位置し、2290mのヴィトシャ山の麓にあって、ガーデンシティの別名のとおり、随所に公園と森のある緑豊かな都市です。新宿御苑規模或いはそれ以上の公園は市内の至る所にあり、市民の憩いの場になっています。

(2) 政治・経済状況

1989年まで、旧ソ連指導の下、コメコン（東欧経済相互援助会議）の一員として、農業や工業などの分野において重要な役割を担い、安定した地位を保っていました。しかし、同年の旧

〒351-0114 埼玉県和光市本町 31-10-1-104

TEL 048-464-8552

FAX 048-464-8552

E-mail: soyyo@mrj.biglobe.ne.jp



出典：郵貯 HP



出典：外務省

ソ連の崩壊に伴いCOMECON経済圏が機能を停止した結果、主要市場を失い、社会主義中央集権経済の下で技術的・構造的改革を怠って来たことが災いし、市場経済圏諸国に比し近代化に著しく遅れをとったため、国際競争力の弱さが白日の下に曝され、社会的にも経済的にも大混乱の渦に巻き込まれました。国力が急速に減退し、国民所得の大幅な低下を来し、国营企業の

倒産により失業した者も多く、その結果 100 万人ものブルガリア人が国外に流出したと言われています。

この国難を乗り切るために政府は、国の進路を従来の社会主義経済から民主主義・市場経済へと 180 度転換、欧州経済圏（EU: European Union）との関係を強化することを決定、爾來、2007 年の EU 加盟を目指し、国全体の改革を推進しています。

EU はこれを多として、社会・経済、その他のあらゆる面でブルガリアの EU 加盟実現を支援しています。近い将来、晴れて EU の一員として認められるよう、1989 年以来、政府も民間部門も一般の庶民も、力を合わせて国の大改革に取り組んでいるところです。しかし、この道のりは決して容易なものではありません。40 年余慣れ親しんだ社会・経済システムを棄てて、全く新しいシステムを構築する大改革だからです。

一人当たり GDP は未だ 2,538 ドル/年（2003 年）と低く、失業率は 13.5%（同）と高く、厳しい経済状況にありますが、その割には、日常生活はそれほど貧しいとは見えないから不思議です。これは社会主義時代の手厚い福祉政策により、アパートなどの住宅を所有している国民が多く、物価水準は低く、肥沃な土地に恵まれ食べるものが無くなるという飢餓の事態にはならないからだと思います。このためかブルガリア人は、日本人と違い悠々と構え、教養を高めながら生活を楽しむということが生き方の基本スタイルになっています。所得は低くても郊外に別荘を構えている人も少なくありません。

教育水準は高く、例えば、大学生総数の総人口比率は 3% で日本の 1.5 倍であり、如何に高等教育に力を入れているかが分かります。かねてから男女平等社会ですから女性の社会進出度は相当なもので、仕事場だった経済省職員の半数以上が女性です。政府の要職に就いている女性も少なくありません。

日本語教育も盛んです。ソフィア大学をはじめ



家庭教師（向って左側）と

め幾つかの大学・高校には日本語学科があり、日本人教師も派遣されていて、多くの学生が日本語を学んでいます。これらの学生が日本留学を目指し学習成果を競う日本語スピーチコンテストを観て驚きました。その話しぶりは堂々としてよどみなく、発音、アクセント、イントネーション共に申し分のない人ばかりで甲乙付け難く、審査員がかなり苦勞した様子でした。

日本語といえば、ブルガリア語の家庭教師になったソフィア大学日本語学科3年の聡明な女子学生との出会いは素晴らしいものでした。日本に行ったことがないのに、日本語能力の高さは相当なもので、その時点で殆どの教育漢字を習得していて、かなり難しい書物も読解できるレベルでした。ブルガリア語学習の過程で日本語と比較検証する機会がたびたびあり、楽しく議論しましたが、学習意欲旺盛な彼女はその機会を最大限に活用し、日本語能力の向上に結びつけていました。

その後、日本の文部科学省の留学試験に合格、日本語に磨きをかけるため一年間、京都大学に留学しました。そして、私が帰国後の2000年の夏に、留学中の彼女と再会、家内共々長野方面への旅行と東京見物をするという嬉しいことが実現しました。

留学の成果は著しく、彼女の日本語能力は一段と向上していて、日常的には何の不便も感じないのみならず、TVで香取慎吾のバラエティ番組を楽しんでいるというから驚きでした。勿論、その陰にはたゆまない努力があったからに違いありません。

3. 日本との関係

国交開始は1939年ですが、1944年の共産主義政権の成立でこれが一旦途絶えたものの、1959年に回復し現在に至っています。

ブルガリアが広く日本人に知られるようになったのは、1970年の大阪万博のブルガリア館で初めてヨーグルトが紹介され、これを契機に翌1971年、ブルガリアの国営企業と技術提携した明治乳業が、ブルガリアヨーグルトの販売を開始したことが発端です。国名を冠した商品の例は殆ど無いようで、ヨーグルトと言えばブルガリアという図式があまねく広がって行きました。因みに同社のブルガリアとの提携関係は現在も継続中です。

日本政府は、ブルガリアが民主主義、市場経済を基盤に据えた国造りに方向転換したことを受け1990年から、インフラ整備や公害防止などの分野で経済・技術協力を実施しています。2002年には、ソフィア地下鉄の路線延長計画に円借款が供与されています。

残念ながら民間部門では、他の東欧諸国と異なり日本からの投資は殆ど無く、経済交流には見るべきものはありません。日本の工業製品の輸入は増大していますが、ワインなど、ブルガリア製品の日本への輸出は先細りの状態です。これを象徴するかのように日本商社のソフィア支店閉鎖が続いています。

4. ブルガリア人の国民性

ブルガリア人はおしなべて外国人に対して友好的で、とりわけ日本人に対しては、知識人は

もとより、一般庶民も尊敬の眼差しを持って接してくれます。仕事場でも巷でもこれを感じます。

世界には表面的には友好的でも、心の中では様々な理由から日本人を蔑視し嫉妬していると感じさせる国が少なからず存在するのが現実ですが、ことブルガリアに限っては、そのような印象を抱いたことがありません。

両国間の経済交流が活発とは言えないにも拘わらず、ブルガリア人は日本を、大戦で焦土と化した状態から驚異的な経済発展を遂げ世界第二の経済大国にまでなった奇跡の国と見ていることが背景にあるようです。

タクシーに乗った時、こんな経験をしました。

運転手から国籍を聞かれて、日本人だと答えた途端、「こんにちは」「ありがとう」「かみかぜ」などと、知っている限りの日本語を得意気に披露し、「ソニー」「トヨタ」「パナソニック」などの日本の代表的工業製品を褒め讃える言葉を聞きました。或る時は、日本人だと知ると「オー！日本人か。それならタクシー代は要らない。日本人は大好きだから。」と、最大級の友好的対応に接しました。日本人の心をくすぐるこの言葉を真に受けるほど野暮ではなく、これに感謝しながらも、勿論、支払いました。しかし後になって、こんな友好に溢れるメッセージを貰った以上、ティップをどっさり弾むべきだったと、少々反省しています。

5. ブルガリアでの生活

経済発展に遅れをとった裏返しとして自然破壊が少なかったことから、至る所で素朴な自然を満喫できます。

例えば、市電は市街の道路を走るだけとの先入観を持っていたところ、幾つかのソフィア路線では、鬱蒼たる森の中に当然のように入って行き、森の中の停車場を経由して再び市内に顔を出すという、日本では考えられない優雅な趣には痛く感激しました。ソフィアの屋根とも



ソフィア市内の森を行く市電

言えるヴィトシャ山では登山、ハイキングのほか、ワラビ、ゼンマイなどの山菜取りも楽しめます。

健康を維持しながら外国で仕事をする上で、衛生環境の善し悪しは勿論重要ですが、対人関係を主とする精神衛生環境が、実はより重要だと思います。ブルガリアは両要件とも満たしており、少なくとも駐在中、現地の日本人が病に倒れたという話を寡聞にして知りません。

食生活面では、地味豊かな土壌からの贈り物として、季節毎に様々な旬の果物、野菜がふんだんに供給されます。とりわけ、旬の完熟トマトの味は、正に絶品です。ジャム、ピクルス、ジュースなどの農産加工品も安くて豊富です。加えて、日本の味噌とも言うべき、「スィレネ」というブルガリア特産の山羊の白チーズや、鶏肉、豚肉、蜂蜜、それにパンの味もなかなかのものです。近年は、黒海産に加え、これまで市場に余り見られなかった新鮮な魚類がギリシャなどから輸入され出回るようになり、食生活は一層、豊かになりました。

高品質の酒類、特に、良質のブドウから作られたワインは安価な上、美味しさはフランスワインに引けを取りません。その証拠に、日本大使館では、接待用に供されていたフランスワインを数年前からブルガリア産品に替えています。

勿論ヨーグルトは、ブルガリアで最も広く普及している食品の一つです。単品で食するだけでなく様々な料理に使われています。日本の醬

油に匹敵する基礎食品と言えると思います。

単身赴任で自炊の私は、毎朝、ヨーグルトにトマト中心の野菜サラダ、蜂蜜入り紅茶を欠かさず、夕食も現地の食材をベースにした料理を楽しみながら作っていました。

文化面に目を転じると、日本では普段まず行くことのないバレエやオペラを、先進国に比べると嘘のように安い入場料で観劇することが出来ます。

古い建物で、少々薄汚さが目立つものの伝統あるソフィアのオペラ座は、世界の三大オペラ座に比肩すべくもない小規模ながらも、どっしりした趣で、ブルガリア国立オペラ・バレエ団により、有名な演目の公演が定期的に行われています。

元々オペラ好きの或る日本人駐在員は、すっかりこれに耽溺し、全ての演目観劇を欠かさぬ上、お気に入りの演目についてはリピーターでした。

彼の影響を受けて、これまでは、とんと関心がなかったのに、最前列の席で生の醍醐味を存分に味わうようになってしまいました。

批評能力はないものの、800万の人口でオペラ・バレエが成り立つこと自体、ファンの鑑賞力と、これに応えるオペラ・バレエ団の芸術水準の高さを窺い知ることが出来ると思います。

因みに、観劇した演目をあげますと、「白鳥の湖」「ラ・ボエーム」「トゥランドット」「ラ・トラヴィアータ」「トロヴァトーレ」「セヴィリアの理髪師」「仮面舞踏会」「アイダ」でした。

スポーツでは、サッカー、テニス、バスケットボール、バレーボール、登山、水泳、スキー、などが盛んです。しかし、ゴルフはブルガリア人の気質に合わないのか話題にもなりません。数年前ソフィア近郊に出来たブルガリア唯一のゴルフ場は、コンディション不良で評判が悪く、日本人も出かけません。

ブルガリア人が熱を上げているスポーツはやはりサッカーで、日本同様、多くのチームがサポーターを巻き込んで覇を競っています。

日本人は、ソフィアから日帰りできるヴィトシャ山の登山や、テニス、バスケット、バレーボール、スキー、などに興じています。

テニスが趣味の私は、ブルガリア人も参加している日本人会のテニスクラブで週に1,2回、楽しむほか、ブルガリア人コーチの指導も受けました。日韓両大使も参加する日韓親善試合にも出ました。

6. 産業政策立案・指導業務について

日本の産業政策について学び、これを自国の産業の発展に役立てたいとの要請を受けてブルガリアに赴きましたが、赴任前に聞いていたのとは状況がかなり異なり、入口で困難に直面しました。市場経済体制への移行を目指してはいるものの、専門家受入先の経済省には産業を所管する部局はあっても、産業の実態把握さえ不十分で基本情報が少なく、産業政策という概念も未成熟なため、これを立案実施する組織体制が無い状況でした。

また、専門家と日常的に接するカウンターパートは産業所管部局ではなく、コミュニケーション上の問題から、外国からの経済援助を所管する部局が追加業務として担当しました。一



講演の一コマ



サヨナラパーティーで二人の次官と



カウンターパートと秘書

口で言えば、経済省には専門家受入に適した体制が無い状況でした。

幸い、人柄抜群の女性カウンターパートに恵まれ、いつも協力的で、日本の産業政策を真摯に学ぼうとの姿勢で臨んでくれたお陰で、日本の経験を基に、座学による産業政策の意義と必要性の紹介から始まり、実際にブルガリアの産業実態調査と一緒に実施するなどによる指導を行った結果、経済省組織の改革までは出来なかったものの、ブルガリアにおける今後の本格的な産業政策の立案・実施のための礎の構築に、小さな寄与が出来たのではと自負しています。

帰国に際しては、思いがけずも経済大臣から記念品と感謝状を頂戴するという望外の喜びがありました。

7. 結 び

振り返ってみると、2年間はあっという間に過ぎ去りました。この間、任務遂行過程でのトラブルや、二度もスリに遭うなどの不愉快なこともありましたが、これを格段に上回って余りある楽しさが、これらをすっかり洗い流し、良い思い出だけが残っています。

カウンターパートは勿論のこと、秘書、ブルガリア語の家庭教師、任務遂行の過程で親しく

なった会社の部長、タクシーで偶然に遭遇した旧 JETRO ソフィア事務所時代の運転手、日本の新聞を毎日無償で届けてくれた会社社長とは、家内の短期訪問を機にお互い家族ぐるみの交流にまで発展し、心を許せる真の友人となりました。

海外駐在で、真の友人が出来ると言うことに勝る喜びはありません。これは金銭に換算出来ない貴重な財産だと思います。帰国後も Email など近況を連絡しあっていましたが、今度は仕事ではなく遊びにいらっしやいとの招きを受け、帰国1年数ヵ月後の2003年9月には、家内と親しい友人を伴って再度ブルガリアを訪ねました。友人達から大歓迎を受け、改めてお互いの絆の固さを実感しました。

親日度が抜群の友好国ブルガリアは、日本人にとって大層居心地の良い国と言えます。良いこと、楽しいことづくめの国と言っても過言ではないでしょう。世界に数少ない親日国のブルガリアに駐在した日本人は、皆、この国が好きになっています。日本として大事にすべき国だと思います。2007年目標のEUへの加盟実現を応援する意味でも、今後、日本との経済・文化交流が一層発展することを切に願って止みません。

(了)